

## 子宮頸部細胞診検査＋HPVオプション検査の受診について

子宮頸がんの最善の予防策はがんになる前に発見することです。

子宮頸部細胞診検査単独の検査では、がんになる前の前がん病変を発見出来ない場合があります。

一方、子宮頸部細胞診検査とHPV検査という2つの検査を併用すれば、ほぼ確実に前がん病変を発見することが出来ます。

このHPV併用検査を実施している施設は多くありませんが、子宮がん検査を受診される方は、[HC2法] 子宮頸部細胞診検査+HPVが受診可能な健診機関で受診されることを推奨いたします。

### HPV検査とは・・・

子宮頸がんはHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因であることが解明されています。  
細胞の中からHPVの遺伝子検出する検査をHPV検査といいます。

但し、子宮頸部細胞診とHPVの併用検査は**異常がなければ毎年受ける必要はありません。**

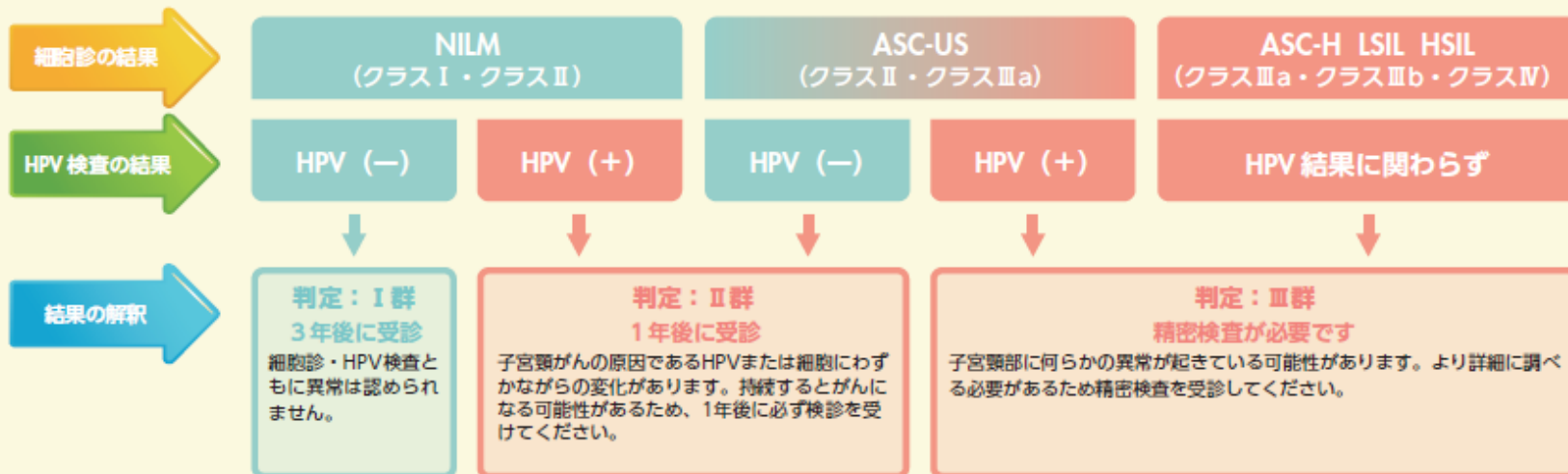
下記表にもある通り、**判定I群の方は、前回受診時より3年後の検査を推奨しております。**

(欧米では5年後を推奨するなど、精度の高い検査となっております。)

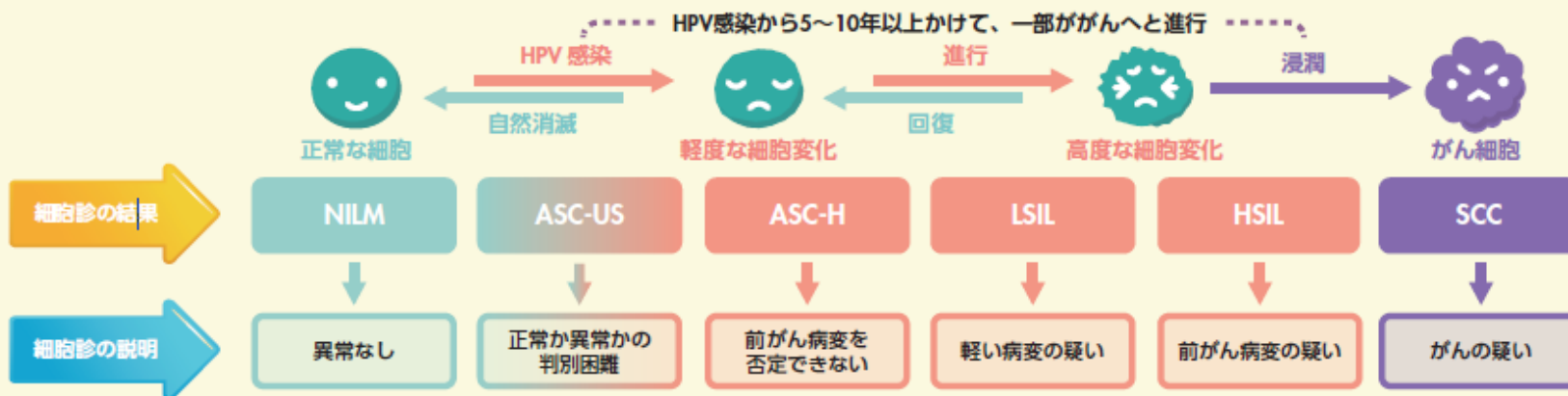
検査結果と検査時期(検査年度)はご自身で把握をして頂き、計画的な検査を検討頂きますようご協力をお願い致します。

## 【検査結果と次回の検査時期】

◎ 検診の判定は2つの検査結果から判断されます。それぞれの検査結果と総合判定について説明します。



◎ HPV感染から子宮頸がんになるまでの過程について説明します。



- 判定に関わらず、不正出血や自覚症状等がある場合は、必ずお近くの医療機関で精密検査または治療を受けてください。(保険診療扱いとなります)